読者モデルが福祉作業所を訪問。

福祉作業所ってなんだか楽しい!!

福祉作業所ってどんなところ？

今回のレポートを手伝ってくれたのは、東京都立調布北高校の軽音楽部のメンバー。4人とも福祉作業所の中に入るのははじめて。どきどきしながらの初訪問です。何ったのは、調布駅北口から徒歩約10分、旧甲州街道沿いにある社会福祉法人新の会が運営する福祉作業所「はあと・ふる・えりあ」。ベーカリーカフェ「ふぁんふぁーれ」も運営しています。さあどんなところでしょうか。

こんにちは

「ようこそ」と出迎えてくれたのは事務局の職員さん

まずは1階で作業見学

「はあと・ふる・えりあ」はパンやクッキー、ケーキ、ゲゲゲの鬼太郎妖怪焼きなどの製造販売や、一般企業などからの受注仕事、織物製品やアクセサリーなどの制作販売などを行っています。この日は1階の広い体育館のような第一作業室で、コインランドリーで販売されている洗剤の箱詰め作業をしていました。

施設長から作業所の特徴と1階でやっている作業の内容の説明を受ける

フェルトを使ったアクセサリー。吉祥寺の「マジェルカ」という店で200～300円で販売されている

利用者にインタビュー

1階で作業をしていたみなさんと撮影

記念撮影ハイチーズ

利用者さんに仕事の内容や日頃の生活を取材

福祉作業所ってどんなところ？
職員はどんな人？
作業って大変？
スイーツやパンっておいしいの？
外から見ていると
なかなかわかりにくい内側を、
読者モデルが体当たりレポート！

東京都立調布北高校の軽音楽部メンバー。手前から肥留間彩音さん（2年）、竹内文香さん（2年）、下窪美香子さん（1年）、中村若菜さん（1年）

読者モデル大募集！！

わくわーくでは、読者に福祉作業所を体験していただく企画を次号8号でも考えています。
福祉作業所にいってみたいという読者の方、ぜひご応募ください。お礼におみやげを用意させていただきます。

■訪問予定：11月中～下旬　■取材先：連絡会加盟の作業所を予定

●お問い合わせ・お申し込みは、
「調布市福祉作業所等連絡会」事務局へファックスにて、
①お名前、②住所、③連絡先、④パソコンをご利用の場合メールアドレス、④年齢、⑤応募の動機、などをお書きうえ、042-481-3201へお送りください。事務局から連絡させていただきます。
※応募者多数の場合は編集部で選考させていただきます。ご了承ください。

こんなのできました！

肥留間さんはキリンのブローチ、竹内さんはカエルのスポンジを制作

中村さんはハート型のアクリルスポンジ、下窪さんはカエルスポンジを制作

つづいて2階で作業体験

2階の工房室では、フェルトを使ったアクセサリーづくりと、古い布を細かく裂いて折り込む〝裂き折り〟の作業をしていました。今回は特別にフェルトを使ったアクセサリーなどの制作を体験させていただきました。型の中にカラフルなフェルトを入れて針で突っつくとあら不思議、固くなってヒツジやウサギのアクセサリーに。みなさん真剣です。

施設の職員さんから作り方を教わります

針で突っつくだけだけどやってみたらかなり楽しい

後ろのほうでは織り機を使って裂き織りをしていました

福祉のことについて聞いてみました

作業終了後に施設の職員さんから、作業所の役割や運営の難しさや魅力、障がい者の方の賃金、1日の仕事などについて取材。福祉についていろいろ聞けました

ふぁんふぁーれでパンを試食

最後にベーカリーカフェ「ふぁんふぁーれ」で焼き立てパンを試食させていただきました。ここのパンは溶岩窯（ようがんがま）で焼いているのが特徴で、常時約40～50種類のパンが店内に並びます。持ち帰りのほか、イートインコーナーがあります。

グラタン風ピザ150円

ホイップドーナツ120円

洋なしのデニッシュ150円

リヨネーズポテト180円

おいしい～

おみやげをいただきました

ゲゲゲの鬼太郎妖怪焼きセットをおみやげにいただきました

わすか2時間半ほどの駆け足での訪問でしたが、百聞は一見にしかず。施設の中に入り、施設の利用者さんや職員さんと話して、作業を体験したことで、福祉作業所をかなり身近に感じていただけたようです。「明るい雰囲気できれい。イメージが変わりました」（中村さん）、「いろんな利用者さんと会いましたがみんな楽しそうでした」（竹内さん）などの感想をいただきました。